

## 9 運動未経験乳牛のパドック出し入れ訓練

(畜試 乳牛部)

多頭化に伴なう未経験牛の訓練方法を検討した。

(2人組作業で1頭当たり 60秒/初日 32秒/30日 14秒/80日)

### (1) 背景と特徴

乳牛の運動の必要性については、農家も認めているが、多頭化するにしたがい、牛が舎内にのみ撃留される傾向が見られる。後代検定牛の多くが運動未経験牛であることから、これを供用し、パドックへの出し入れ労力・方法を検討し、乳牛の運動日光浴促進の参考にしたい。

### (2) 技術内容

- 1) 乳牛をパドックに出す労力は2人組み作業で、初日19秒/頭が30日後には1人の労力で5秒/頭と $\frac{1}{6}$ の労力で可能となった。
- 2) パドックから牛舎に入れる労力は2人組み作業で、初日60秒/頭を要したが、30日後には32秒/頭約 $\frac{1}{2}$ となり、80日では1人の労力で14秒/頭となった。
- 3) 牛出しは、開始後10日ほどはスタンションはずし1人、追い出し1人が必要であるが、それ以降は牛が馴れるので、スタンションはずし、追い出しを1人で充分であった。
- 4) 牛入れは牛が自分の牛床位置を知らないため、1人が戸口から2～3頭づつ入れ、1人が牛床に追い入れスタンションをかけた後、次の群を入れる方法で、牛に牛床位置を記憶させ、大半の牛が追われずに自分の牛床に入るようになるに従い、一度に入れる頭数を増やすと80日程度で全牛を同時に入れられるようになる。
- 5) 組人数を3人とすると追い入れ作業に用する時間は短縮されるが、牛が位置を記憶するのに用する期間には2人組みと差がないように見られる。
- 6) 牛が迷わず自分の牛床に入るのは、牛床の両端が最も早く、中央附近は遅い傾向が見られた。

### (3) 指導上の留意点

- 1) 運動をしていない牛をパドックに初めて出す時、1週間ほど牛床、通路ですべり転倒する牛がありそれによる事故はなかったが、妊娠末期牛等は分娩後に実施すること。
- 2) 初めてパドックに出した牛は、初日10分～20分ほどはね廻り、牛相互で闘争するが、数日で落ち着くから数日のみ事故防止に留意すれば良い。

3) 牛は一度記憶した自分の牛床位置は半年以上記憶しているので、牛床位置は出来るだけ移動をさけることが望ましい。

(4) 試験成績の概要

1) 試験課題名

運動未経験牛の出し入れ訓練調査～昭和56年度優良乳用種雄牛選抜事業（P50）の娘牛群を供試。

2) 試験年次および場所

昭和56年 岩手畜試

3) 試験方法

- ① 農家から集めた後代検定娘牛を用い、牛舎を牛床で左群、右群と分け、左群は2人の組人員で、右群を3人の組人数で、出し入れに用する時間を計測し、個体の行動観察も行った。
- ② 馴致方法は現場技能員の長年の経験観察から得られた方法を用いた。

4) 結果の概要

2人組作業と3人組作業を30日間の調査では、個体が牛床に入るまでの時間は平均で2人組 $41.7 \pm 9.61$ 秒が3人組で $35.9 \pm 5.15$ 秒で3人組が短かったが、迷い率（牛が自分で牛床に入れなかった率）は $29.5 \pm 14.97\%$ （2人組）、 $29.8 \pm 10.79\%$ で差が見られなかった。

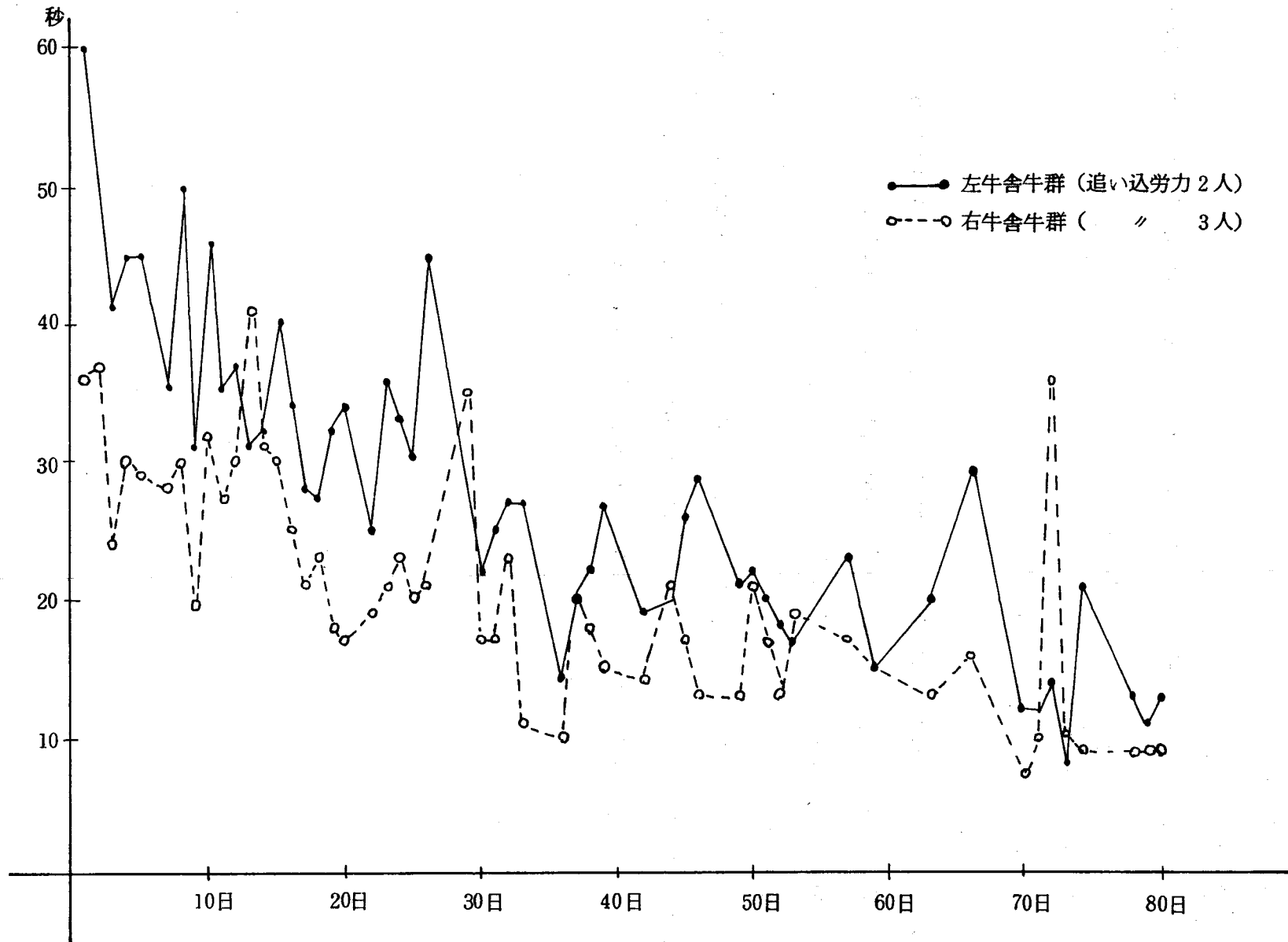


図1 牛床誘導に要した時間 (1頭当り平均)

図-2

個体別当り迷い状況(左牛床牛群) ● 迷い追われ ○ 自分で牛床に入る

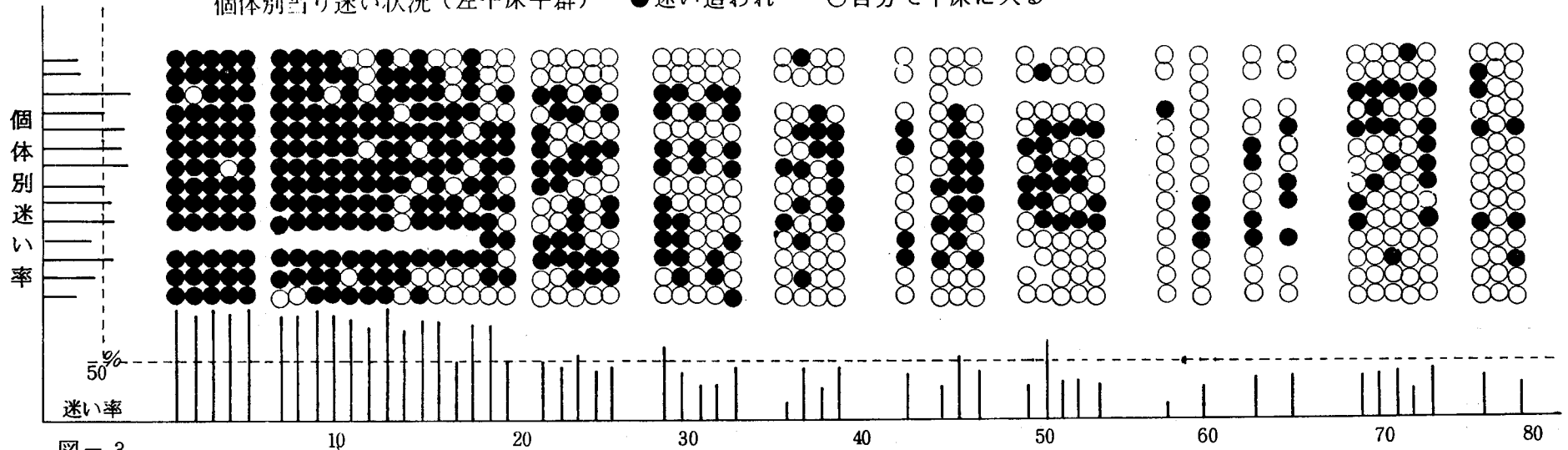
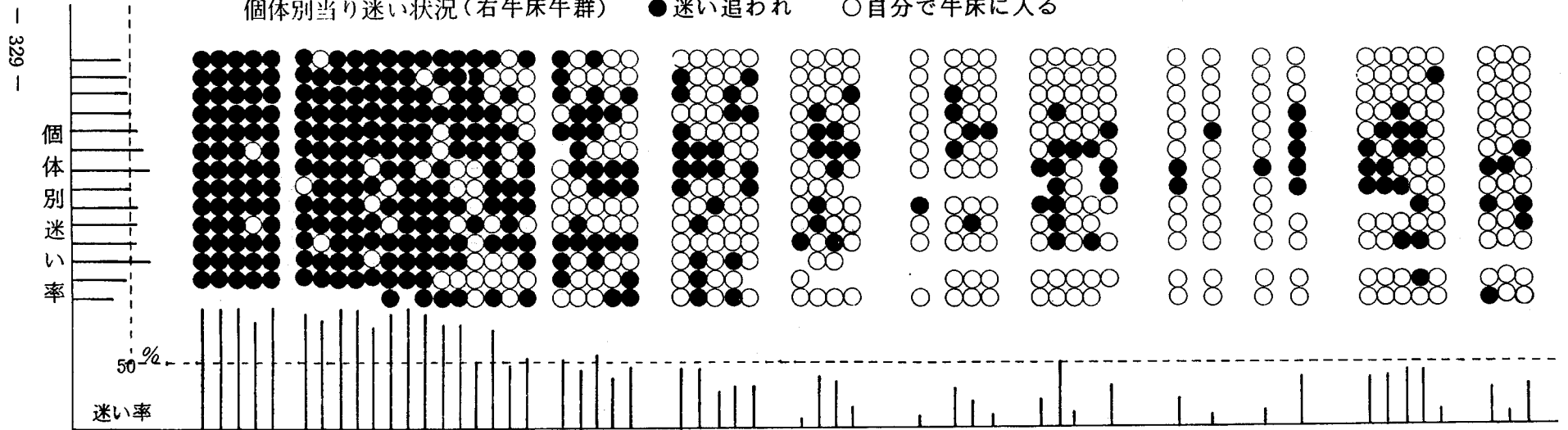


図-3

個体別当り迷い状況(右牛床牛群) ● 迷い追われ ○ 自分で牛床に入る



経時別迷率の推移